

ひたちサンドアートフェスティバル 2014

2014年7月20日(日)に、ひたちサンドアートフェスティバル 2014が開催されました。ひたちサンドアートフェスティバルとは、地元である河原子海岸で開催される、夏の海の祭りです。砂浜に大型砂像を多数作成するほか、各種スポーツイベントや音楽イベントを盛り込み、海開きを迎える河原子海岸をにぎやかに彩ります。イベントの締めは、曲に合わせて一斉に花火を打ち上げる、10分間の劇場型花火です。

ひたちサンドアートフェスティバルは、行政ではなく、地元の若者たちによって作り上げられている点に特徴があります。主催は日立青年会議所です。茨城キリスト教大学の学生たちも、毎年スタッフとしてイベントに加わり、重要な役割を果たしています。今年も、大学のボランティア学生143名(および学外からの参加者2名、教員2名、看護師1名)の大人数が参加しました。

サンドアートは、今年で5回目(前身のイベントから数えると7回目)になります。毎回、何らかのテーマが生じます。第1回(2010年)は「初チャレンジ」、第2回(2011年)は「震災復興」、第3回(2012年)は「大規模化:学生ボランティアの増加」、第4回(2013年)は「企画段階からの学生の参加」でした。今年のテーマは、まさに「悪天候との戦い」でした。

サンドアートは、海開き直前の日曜日開催と決まっています。以前は、この頃には梅雨が明けていました。しかし、去年から天候が怪しくなり、ゲリラ豪雨も生じはじめています。今年も、去年以上に天候の悪化が顕著でした。大型・中型砂像の作成には、1週間かかります。砂像には天然素材のグルーがかけられており、表面はある程度固まっています。しかし、豪雨や長雨には耐えられません。悪天候のため、今年も砂像の作成が例年以上に困難となりました。それでも、みんなが協力し合い、当日までに砂像を完済させることが出来ました。なお、イベント当日は雨も降らず、かつ猛暑でもない過ごしやすい天気となりました!

【イベント準備(本番1カ月前)】



1. 学生ボランティアの募集

学内にて、ボランティアスタッフを募りました。全部で150名ほどのエントリーがありました。学生たちを集め、2度ほど説明会を実施しました。



2. CM撮影

地元テレビ局J-WAYでCMが作成・放映されました。撮影は本学で行われました。11号館2階に設置されたカメラに向かって、みんなでポーズをとっています。



3. BBQ

6月に開催した「ひたちキッズワールド」の打ち上げと、サンドアートの決起を兼ねて、土曜日に河原子海岸で地引網体験とBBQが開催されました。

【砂像の作成開始(本番1週間前)】



4. 砂像の作成

本番一週間前となり、いよいよ砂像の作成が始まりました。写真は、海外からお越しいただいたプロの彫刻家による大型砂像の作成風景です。



5. 砂像の作成

プロの作品が、徐々に形が浮かび上がってきました。今年も、2人のプロと地元の大手建設会社による大型砂像(3体)、本学の学生や地元の有志たちが作る中型砂像(10体)が作られました。



6. 砂像の作成

こちらは地元の大手建設会社による差族です。社員の方たちが休日に集まって、砂像を作成しています。プロの彫刻家ではありませんが、砂を操る腕前は、まさに建設のプロです。



7. 茨城キリスト教大学の砂像

砂像作成前の様子です。



8. 砂像の作成

茨キリ大砂像作成チームのリーダーは、文化交流学科 3 年生の“てっちゃん”です。てっちゃんのもと、元気な仲間が 10 名ほど集まりました。彼ら・彼女らは、美術部ではありません。普段は運動部などで活躍していますが、こうしたイベントが大好きで、砂像作成に名乗りを上げてくれました（ゼミ担当教員の影響も大きいのでしょうか…）。感謝！



9. 砂像の作成

砂像の作成期間は、大学は通常授業です。みんな、授業後に海岸に集まり、夜遅くまで作業を続けました。教員も 2 名ほど、砂像作りのお手伝いをしました。



10. 砂像の作成

海岸では、常時 20~30 名が砂像を作っていました。海岸は賑やかで、楽しい雰囲気でした。青年会議所のメンバーは、砂像警護のため海岸に常駐していました。大きなテントを張り、そこで忙しそうに仕事をしていました。この期間は、本業の仕事を休む方も多そうです。こうした人たちの努力で、イベントは運営されています。

「ひたちランドアートフェスティバル」スタッフTシャツ 案03



ひたちランドアートフェスティバル ① ひたちランドアートフェスティバル ②
STAFF ③ ④ myart ⑤ ⑥
MAXIMUM ⑦ SandArt2014 ⑧

11. スタッフTシャツ

日立青年会議所の方たちがデザインしたスタッフ T シャツが出来上がりました。今年は蛍光色です。



12. Tシャツの配布

第二回の説明会時に、学生ボランティアたちに、スタッフ T シャツを配りました。学生は、全学部学科に及びます。通常授業期間であったため、学生を一度に全員集めることは困難です。昼休みを使い、2 回に分けて説明会・T シャツ配布を行いました。



13. 中型砂像（茨キリ大）

Team てっちゃんの砂像です。高さは 2m ほどです。今年のテーマはピラミッドとスフィンクスのようです。



14. 大型砂像

こちらはプロの作品です。高さは約 4m あります。かなりリアルです。



15. 大型砂像

こちらもプロの作品です。彫刻家はドイツ人ですが、日本文化が好きです。精緻に作られた、身長 4m の機械仕掛けの招き猫です。

【突然の豪雨（本番2日前の早朝）】



16. 豪雨で崩れた砂像…

本番2日前の明け方に、大規模な雷雨が発生しました。それにより、砂像は深刻なダメージを受けました。上の写真は、表面が崩れた茨キリ大の砂像です。その後も、豪雨は続きました。



17. 豪雨で崩れた砂像…

こちらは機械仕掛けの招き猫です。せっかく精緻に彫られた砂像ですが、あちこちが崩れてしまいました。砂像は、一度強く圧縮して固めた砂を削って作ります。そのため、崩れた個所の修復は困難です。結局、この砂像は取り壊しとなりました。本当に残念でした。



18. 豪雨で崩れた砂像…

こちらの像も、深刻なダメージを受けました。この段階では、後頭部が崩れています。この後、両頬も崩れてしまいました。こちらですごくリアルに作られていただけに、実に残念でした。



19. 砂像の修復作業

急ぎ、作業の修復作業が進められました。学生たちも大慌てで海岸に駆けつけ、修復作業に着手しました。しかし、また強い雨が降ってきました。写真は、砂像にテントを設置してくれている、日立青年会議所の方々です。



20. 砂像の修復作業

即席で作ったテントの下で、砂像作りが再開しました。



21. 砂像の修復作業

雨が強くなってきました。テントにたまった水を排水する溝も作られました。大雨の中、それでも30名近い人たちが、砂像作りを進めています。困難な作業でしたが、それでも会場には「イベントを成功させる！」という一体感が満ちていました。

【雨の中の最終準備（本番前日）】

7月19日(土)		7月20日(日)	
14時	24℃ 晴 高気圧 2m/s	0時	曇雨 21℃ 湿度:95% 北北東1m
15時	23℃ 晴 高気圧 2m/s	3時	曇雨 20℃ 湿度:95% 北北東1m
16時	23℃ 1ミリ 高気圧 2m/s	6時	曇雨 21℃ 湿度:95% 北北東2m
17時	24℃ 1ミリ 高気圧 2m/s	9時	晴れ 21℃ 湿度:85% 北東2m
18時	23℃ 晴 東高気圧 2m/s	12時	曇り 24℃ 湿度:75% 北東3m
19時	23℃ 6ミリ 東 3m/s	15時	晴れ 24℃ 湿度:78% 東北東3m
20時	21℃ 5ミリ 東 3m/s	18時	曇雨 22℃ 湿度:95% 北北東1m
21時	21℃ 3ミリ 東高気圧 2m/s	21時	曇雨 22℃ 湿度:95% 北北東1m
22時	21℃ 1ミリ 高気圧 2m/s	24時	高気圧 21℃ 北 2m/s
23時	21℃ 1ミリ 高気圧 2m/s	7月20日(日) 12時00分発表	
0時	21℃ 1ミリ 北 2m/s	7月19日 11時00分発表	

22. 天気予報

本番前日（19日）の予報は一日中雨でした。それでも、「明日はちょっと晴れる」という天気予報を心の頼りに、作業を勧めました。



23. 砂像の修復作業

雨のなか、会場設営も始まりました。テントなども設置されています。



24. 砂像の仕上げ作業

砂像エリアでは、夜遅くまで砂像の最終仕上げが進められていました。



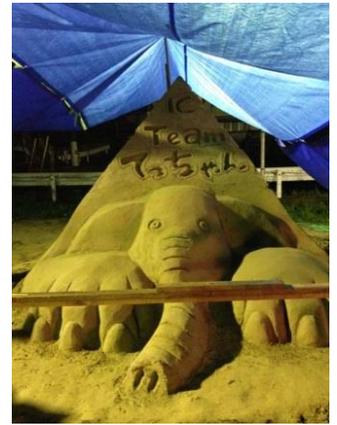
25. 砂像の仕上げ作業

Team てっちゃんの砂像も出来上がってきました。正面は、スフィンクスからゾウに変更になったようです。文化交流学科で、東南アジアの巡検や国際交流を進めている影響でしょうか？かわいらしいゾウです



26. 砂像の仕上げ作業

夜の 21 時を回りました。他の学生達も、手伝いに駆けつけてくれました。総勢 10 名以上です。感謝！



27. 砂像の仕上げ作業

22 時に、Team てっちゃんの作品が出来上がりました。雨で崩れないようにグルーをかけ、シートで保護したうえで帰宅しました。明日は朝から、イベントスタッフとしての重労働が待っています。早めに帰って疲れを取らねばなりません。

【イベント当日】



28. 茨城キリスト教大学学生ボランティア

早朝の河原子海岸での集合写真です。今年、本学からは過去最多となる精鋭 143 人のボランティア学生（および教員 2 名、看護師 1 名）が参加しました。サンドアートのイベントスタッフの大多数は、本学の学生達です！当日は、大学のオープンキャンパスと重なりました。オープンキャンパスを手伝う学生たちも多く、彼ら・彼女らは午後になってからこちらに合流しました。

29. 砂像作成チーム

出来上がった砂像を前に記念撮影。



30. 大型砂像

プロの作品です。残念ながら、一部が崩れてしまいました。



31. 大型砂像

でも、崩れ方も何となく芸術的です。



32. 大型砂像

こちらは機械仕掛けの招き猫だった座像です。急遽、芸術的なクリスタルの像に変更になりました。残念です。



33. 大型砂像

こちらは、地元の名産が模られています。正面は、ユネスコ世界文化遺産に指定された日立の風流物です。さくらダコの触手も見えます。



34. 大型砂像

裏面には、鶴の岬の鶴が彫り込まれています。茨城県の公式マスコット「ハッスル黄門」も、精緻に作られていました。



35. 中型砂像

茨城キリスト教大学の砂像です。本学の理念である「共に生きる」も、側面に大胆にあしらわれています。



36. 中型砂像

寝釈迦です。よくできています。



37. 中型砂像

こちらは幻想的な日本家屋です。日本各地の神様が、温泉を楽しんでいそうです。神隠しに注意(!?)



38. 中型砂像

最近よく見るネコです。



39. 中型砂像

こちらは cool なピラミッドです。崩れ加減が、逆に良い味を出しています。



40. 中型砂像

日立青年会議所の有志による、水陸両用モビルスーツです。アラフォー世代にはたまらない作品です。



41. 中型砂像

サンドアートのイベントロゴの砂像です。なめらかな表面の加工が見事です。



42. 烏帽子岩

河原子海岸を代表するランドマークです。かつては島だったそうです。



43. スタッフの配置

ボランティアスタッフの仕事を割り振っている様子です。



44. アクアボール

各部署で、準備が始まりました。



45. 小型砂像

一番スタッフを必要とする部署です。40名ほどが、小型砂像の土台作りに従事してくれました。



46. 空中ステージ

高所作業車に子どもたちを乗せ、上空からイベント会場を見てもらいます。



47. 本部受付け

会場の案内や寄付の受け付け、看護師さん・警察官の待機場所となっています。今年、本学専属の看護師さんとともに、看護学科の学生2名が、看護業務にあたってくれました。



48. パンフレットの配布

会場入り口に設置されたパンフレット配布。かれらは、大型・中型砂像の警備も兼ねています。



49. パンポン&BMX

こちらも盛り上がっていました。パンポンのコートだけでなく、本格的なBMXの競技施設も作られました。



50. 水鉄砲サバイバル

子どもたちが水鉄砲でサバイバルゲームをするスペースです。学生たちは子どもたちの的にされ、みんなびしょ濡れでした(笑)。



51. チャレンジフェスのビーチバレー

地元の人たちが、サンドアートと同時開催しているチャレンジフェスティバルです。地元の子供たちが海岸でスポーツを楽しんでいます。こちらにも、本学の学生ボランティアが手伝いに行っています。



52. 飲食ブース

今年も、屋台村グルメ王座決定戦を開催しました。会場には、食品ブースがずらりと並びます。市内の飲食店が、腕をかけた料理を出品しています。



53. メインステージ

10 時になると、メインステージで開会式が始まりました。ステージにいるのは、日立青年会議所の理事長です。



54. メインステージ

今年も、イベントの司会は吉本興業の茨城県住みます芸人「オスペンギン」です。



55. 来場者

今日は時々雨という天気予報のため、午前中は客足が伸びませんでした。しかし、陽が差し始めた昼ごろから、来場者が増えてきました。



56. 食品ブース

食事になると、人だかりが出来ました。



57. 屋台村

こちらは屋台村の人気メニューの一つ、ステーキ丼です。おいしかったです！



58. 砂像コーナー

砂像コーナーも大人気でした。子どもたちが、砂像の周りを駆け回っていました。砂像を壊したり、上から転倒して怪我をする子どもがいない様に、学生たちが見張っています。



59. 来場者

おかげさまで、今年もサンドアートは大盛況です。幅広い世代の方々が、遊びに来ています。



60. 来場者

砂浜から見た、イベント会場です。



61. 小型砂像体験コーナー

学生たちが、小型砂像の土台を作っています。底が抜けたポリバケツに砂を入れ、水を入れて踏み固めます。水が抜けたら、上から砂を加えて再び踏み固めます。この工程を 3～4 回繰り返すと、砂像の土台が出来上がります。



62. 小型砂像体験コーナー

小型砂像コーナーに子どもたちが集まり始めました。



63. 小型砂像体験コーナー

強い圧で踏み固めた方が、しっかりとした土台が出来上がります。体格の良い学生がポリバケツの中に入り、砂を踏み固めています。足元に水を掛けられたりしながら、楽しそうに作業をしています。



64. 小型砂像体験コーナー

参加者が、小型砂像の作成を体験しています。いろいろな作品が出来上がりました。



65. プロによる砂像作成のパフォーマンス

プロの彫刻家が、砂像作成のパフォーマンスをしてくれました。鮮やかな手つきで、精緻な砂の彫刻が作られていきます。見事です。



66. アクアボール

こちらも大人気でした。子どもがボールの中に入り込んだ後、空気を送り込んでボールを膨らませていきます。



67. アクアボール

事故がないように、大勢のスタッフが配置されています。スタッフも楽しそうでした。



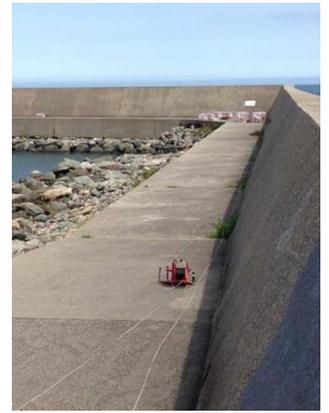
68. 劇場型花火の準備

花火は堤防から打ち上げられます。音楽に合わせて、コンピューター制御で一斉に花火を打ち上げるため、準備に時間がかかります。堤防内を立ち入り禁止にし、野村工務店のスタッフが花火の設置を始めました。



69. 劇場型花火の準備

危険なので、一般人は近くに行けません。お客さんが誤って堤防の中に入らない様に、学生たちが入口を警備しています。目立たないけど重要な仕事です。



70. 劇場型花火の準備

反対側の堤防でも、花火が設置されています。



71. 来場者

夕方になり、また来場者が増えてきました。



72. 交通規制

河原子海岸は道が細く、かつ駐車場も僅かです。そのため路駐が多く、すぐに交通渋滞を起こします。当日は自動車の乗り入れを禁止し、シャトルバスを出しました。それでも自動車は多く、交通誘導をする必要が出てきました。本当に大変な仕事でしたが、学生たちは頑張って交通誘導してくれました。ありがとう！



73. 抽選会場

イベントに参加すると、くじ引き券が貰えます。券を持って本部に行くと今年も一等は、最新式の全自動洗濯乾燥機でした。小学校低学年の男の子が、見事に引き当てました。お父さんとお母さんが大喜びでした。



74. 募金箱

イベントは、協賛者の寄付金によって運営されています（行政からは、ほとんどお金が出ていません）。会場には募金箱が設置されました。本学の元気な女子大生の声掛けのおかげで、結構な額の募金が集まったようです。あっぱれです。



75. イベントステージ

イベントステージでは、目立に由来があるプロ・セミプロのアーティストを中心に、本格的な演奏が次々に披露されました。



76. 卒業生

今年も、大勢の卒業生が遊びに来てくれました。かつてサウンドアートを支えてくれた、教え子達です。私のゼミ生だけでも、20人近く来てくれました。卒業生がこうして遊びに来てくれることは、大きな喜びです。



77. 天候

劇場型花火の打ち上げ時間が近づくと、来場者はさらに増え始めました。打ち上げの開始は 20 時です。一方、天気予報では、18 時から雨となっています。今は曇り空ですが、雨が降らないか不安です。



78. 天候

劇場型花火は、サンドアートフェスティバルの締めであり、最大の山場です。イベントを成功させるため、青年会議所をはじめ、大勢のスタッフが努力をしてきました。天候が持たえ、花火を無事に打ち上げられることを、ただただ祈るばかりです。



79. 劇場型花火の準備

花火の打ち上げ 1 時間前となりました。大勢のお客さんたちが、花火を打ち上げる堤防沿いに集まりました。河原子漁港が、人で埋め尽くされました。壮観な眺めです。



80. ボランティア学生の特権

ボランティアスタッフは、立ち入り禁止のポールの内側に並び、花火の配線が誤って切られたりしない様に警護します。実はここが花火の特等席です。特等席からだと、花火が頭上から降ってくるような、すごい臨場感を味わえます。一日中スタッフとして頑張った学生たちの特権です。



81. 劇場型花火

何とか雨も降らず、無事に花火を打ち上げることが出来ました。本当に良かったです！ 苦労した分、花火の感動もひとしおでした。今年も、花火は大迫力でした。花火に感動して涙する学生もいました。花火の動画は、下記のサンドアート公式 HP からご覧ください。



82. 撤収作業

花火が終わると、撤収作業が始まります。学生たちの協力で、作業はテキパキと進みます。



83. 撤収作業

22 時前には、だいたいの撤収作業が終わりました。皆さん、本当にお疲れ様でした!!!



84. Team てっちゃん 記念撮影

砂像作成チームの記念撮影です。
(教員も 2 名ほど混じっていますが…)
みんな、豪雨にも負けず、本当によく頑張ってくれました!!!

本学と日立青年会議所による、これまでの地域活性化事業はこちら！

http://www.icc.ac.jp/shougai/hitachi_kyodou.html

ひたちサンドアートフェスティバル公式 HP はこちら！

http://www.hitachiic.or.jp/hitachi_sandart/